

豊かな「農」原風景撮る

農作業中の畑で、楽しそうに見つめ合う
山田さん母子（映画「空想の森」より）



映画「空想の森」 26日から上映

今回の「空想の森」が初の監督作品となる。

新得町は北海道中央部、人口約7000人の小さな町。田代さんはテーマ探しのため、地元の農場に飛び込み、自ら野菜作りやチーズ発酵、搾乳に挑戦。「食べ物を生み出す仕事を映画に撮りたい」と決意したという。

主人公は2組の夫婦。30代の山田夫妻は、夫が牧場で働き、妻は生まれたばかりの長女を背負い、野菜を作る。赤ん坊は畑の土の上で眠り、時にハイハイして母に近づこうとする。貧しいながらも、大地と一体となった満ち足りた空間が、そこにあった。

都会育ちの女性 初監督

北海道で農業に生きる人たちの姿を撮ったドキュメンタリー映画「空想の森」が、26日から都内で公開される。野菜を作り、牛を飼う作業を実体験した都会育ちの女性が監督した。雄大な自然や大地の実りを背景に、たくましく素朴な暮らしを切り取り、「農」の原風景を描き出した。

もう一組の宮下夫妻は京都から入植して約30年。子育てを終え、今は夫婦水入らずの生活を送る。採れたての野菜で食事を作り、1時間半かけてマキで湯を沸かし、五右衛門風呂につかる。ゆったりと流れる時間に身を任せ、生活が彼らの宝物だ。

「物や金は満たされていないくても、豊かに暮らす。土の上で体を使って働くことの良さを描いた」と田代さんは満足そうに話す。上映は中野区の「ポレポレ東中野」(☎03



田代陽子監督

田代陽子さん(40)は神奈川県出身。大学中退後、北海道

でタウン誌の編集などをしてきた。1996年、新得町の「SHINTOKU空想の森映画祭」を見に行き、ドキュメンタリー映画のとりこになる。同町在住の映画監督藤本幸久さんの下で修業を積み、

3371・0088)で。